

こどもの国 今昔物語

こどもの国線



こどもの国近辺の人々の足であるこどもの国線。



かつてはこのような電車が走っていた。



近年、東急ではなつかしラッピングをやっているのでも...



このような電車が走っていてもいいと思う。

憩いの場



かつて、近所にビスコというゲーム店があった。



新作、旧作問わずゲームが置かれており、私の憩いの場だった。



しかし、2008年5月に閉店。憩いの場の一つを失った。



現在はテナント募集中。また憩いの場になれなくなって欲しい。



やきそば 会社員
今回から担当させていただきます。よろしくお願いします。

コラム

引込井線 育ち

サリー志村

エミネムを聴くのは、だれ？

ここで以前書いたことだが、いま、昨年まで祖母さんが住んでいた家で一人暮らしをしている。一軒家に単身で住んでいるのでそりゃ贅沢な話だが、広いことでいろいろ悩ましいことがある。まず掃除が大変。使わなくともホコリはたまる。そして寒い。暖房をつけても温度が上がりにくい。おまけに怖い。使っていない部屋からなんか音がしたような……なんてことがある。

しかし、音楽が大きな音で聴けるのだ。もちろん近所迷惑にならないことがマナーだが、これはなかなか得難いものである。しかも最近、ストリーミング配信サービスを利用して、ここには思いつ

きで聴きたいものはほぼある。酔って気持ちいいときなんて、最新ヒットから懐メロをプレイして踊り狂っている。たとえば、ブルーノ・マーズ「ゲットアップファンク」でアメリカンヤンキー気取って仏壇の前を忙しく動き回ったかと思えば、広末涼子「MajiでKoiする5秒前」で乙女のように腰をくねらし、ジュディ・オング「魅せられて」のサビで肩から掛けた毛布を両手でワツと拡げてみる、など。

そんなある金曜の夜。そのときも、ラッパー・エミネムの大ヒット曲「ルーズコアセルフ」を聴きながら、手をあげ頭をふり、キメフレーズ「チュ・オウニ・チュ・ベラ・ネバ・レリ・ゴウ・ゴウ！」を祖父の遺影に向かって叫んでいた。その

翌日、家の前で隣接するアパートに住む20歳代の夫婦と鉢合わせた。なんとなく会釈をすると、女が「こって住む方変わりました？」と聞いてくるので、「はい、いま、孫のわたしが住んでます」と答える。すると、男の方が腑に落ちた顔して「そうでしたか！ 夜に少しラップの曲が聞こえたとき、お婆ちゃんどうしたの?! って思ってたんすよ」という。オレはなんていったらいいのかわからず、すいませんエミネム聴いてたの、オレです、とまぬけたなことを言った。それから音楽はちょっと抑え気味に聴いている。



サリー志村 編集者

昨年面白かった書籍『死に山』、マンガが『我らコンタクティ』、映画が『サーチ』。お時間あったらぜひ！ どれも損はさせませんよ！

この町の記憶

安原まひろ



あの日

睨みつける。唸る。牙を見せる。相手は耳を畳んで後退りし、次には身を翻して走り去る。あの頃の私は、まさに向かうところ敵なしの覇王道、我が世の春であった。

だが、どうしてか、花の咲く季節になるとどうも私は具合が悪かった。息がつまり、目も霞み、なにやら毛も乾いて心地が悪い。その日はことさらに調子が悪く、鼻からやたらと垂れてくる汁をアスファルトに擦りつけながら、いつもの道の巡回警備を行おうとしていたが、こんな姿を若い奴らに見られたら決まりが悪い。強い風とともに砂埃が舞い上がり、顔にこびりつく。陽気もあつてか顔が腫れて熱を持っている。私はふらふらと寺の軒下へと逃げ込んだ。

まだ冬の冷たさが残っているかのような縁の下だ。日向の幸せな暖かさから離れて、このような日陰で過ごすのはまったくもって不本意だが、ひとまずはこのまわりつく居心地の悪さを落ち着かせたかった。まぶたを閉じる。ともかくも、寝入ることになんか変わるかと信じて。

その時地面が大きく揺れた。私は反射的に駆け出し、周囲を見渡した。いつも小便をかけている電信柱が、ぐにやぐにやと曲がるように揺れている。寺の戸がゴミを漁るカラスのような騒がしきで音を立てている。その場でぐるぐる回り続けていると、辺りから次々と人間たちが出てきた。こんな時だ、何をされるかわかったものではない。再び縁の下に引込まうとしたとき、私の体が宙に浮いた。

なんの因果かわからないが、私はあの日以来、巡回をする必要はなくなった。人間の住む箱の中で暮らしている。同じ時間に出てくる餌を食べ、好きなときに何も気にせず寝る。あれだけ多くの仇なす者を引っ掻いてきた爪は短く切られた。だが、もう他の雄から身を護る必要もない。そつえば、この季節特有のあの調子の悪さも、ここに来てからはすっかり良くなった。

最近はずいぶん力がなくなったり、寝る時間が増えている。そのようなことがゆつくりと私に訪れていること以外、この場所に変化はない。いや、ただひとつ、あの地面が揺れた日に私を拾いあげた白い髪の女が、ある日姿を消した。一番私に餌をやり、一番私を撫でてきた女だったが、その役割はいつしか黒い髪の女に変わっていた。

あのような恐ろしい時に、どうして私をこんな所に連れてこようとしたのか、私はわからない。ただ、あのようなことが起これば、私の仲間も、人間も、動かなくなったり、怪我をしたり、生きる場所を変えたりすることになっただろう。そんな時に、他の存在に対して何かをしようと思うのは、私には考えられないことだった。ただ、あの女がそのような人間だったから、私はここにいます。

あの女はとても幸福そうだった。あの女がどこにいったのかはわからないが、きっと今も幸福だろうと、私は思う。



安原まひろ 美術系出版社のウェブ担当

花粉症です。豊富に蓄積された花粉症ナレッジを持つ編集オオキに、最新の症状緩解アドバイスをもらうのが毎春の恒例です。

国マガ配布店

【こどもの国地区】●GRIVE(コーヒー) ●こどもの国歯科(歯科) ●こどもの国のくすり屋さん(薬屋) ●シュタットシンケンかくれが工房(ハム/ソーセージ) ●炭火焼肉はち(焼肉) ●スリーエフ・こどもの国駅前店(コンビニ) ●なごみ(そば) ●奈良地区センター ●Bacchus(イタリアン&バー) ●パドル&ブルー(コーヒー) ●MONT(パン)

【奈良北地区】●かつ元(とんかつ) ●Coonie(パン) ●コンレマーニ(クラフト&カフェ) ●昭和書房(本/文具) ●街の家族(コミュニティハウス) ●felicea(美容室)

【長津田地区】 ●鈴幸ハウス 横浜長津田支店

【青葉台地区】 ●KOGA(美容室) ●COPPET(パン) ●鈴幸ハウス 青葉台支店 ●SoulCocktail's AOBADAI(バー) ●246亭(ラーメン)

国マガからのお知らせ

53号はいかがでしたでしょうか？ 年始のスタートダッシュ疲れにホッと一息読んでいただければ幸いです。おぎぬまXが抜けたあとに、新しくやきそばくんのマンガ連載がスタートです。お天気に詳しい心優しい男です。彼もこの街育ち。どんな物語が編まれるのでしょうか。楽しみですね。ご期待ください！ そして、この前の交流会も楽しく過ごすことができました。こどもの国の地元あるあるなどで盛り上がり、わたしたちも今後の活動の英気を養いました。場所を提供いただきましたグリーヴのマスター、ありがとうございました！ さて、今年で6年目の国マガ、楽しくゆるくみなさんのお手元に届けることができたいと思います。というわけで、また来号！

おしらせ

- ホームページ！ すべての情報はここで！ URL: <https://kunimaga.jimdo.com>
- 次号の国マガの配布日はだいたい4月5日です。

こどもの国系情報誌「国マガ」国マガ Vol.53
発行日 2018年2月5日
発行人 サリー志村
デザイン ヨシミユキ
DTP 安原まひろ
顔イラスト 柏木翔子 ムラウチミレイ
連絡先 kunimaga920@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/kunimaga/>